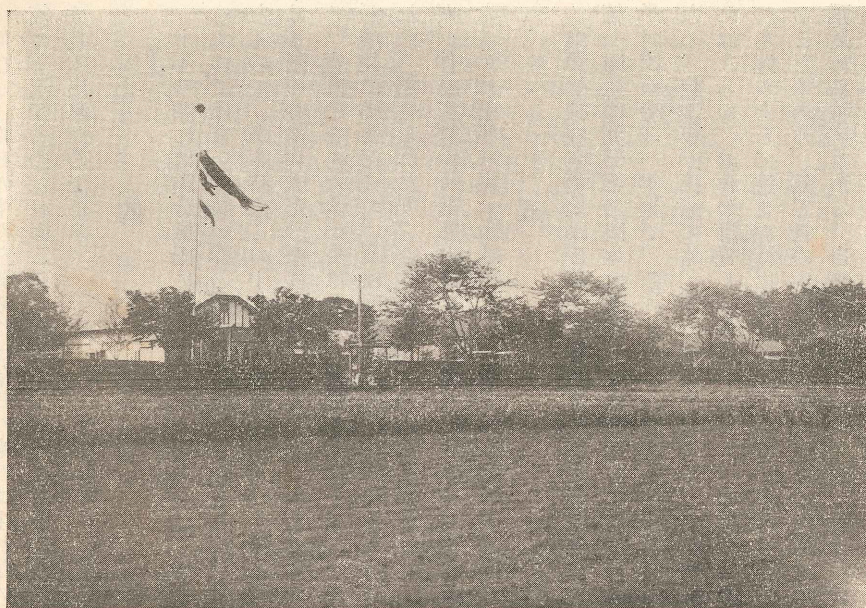


小學校教育月報

第七號

東京市外市吉野井寺公願園
明星學園
電話吉野寺三〇四

創立十周年記念號

創立十周年に當つて

園長 赤井 米吉

一

愈々十周年を記念する時が來た。「十年たつたら」と云ふ氣持が随分持たれてゐた。「十年たてば」と云つて下さる方もあつた。がその十年が來てもまだ何一つとして纏つたものはない。凡てがまだ／＼創業の途上にある。このテンポの早い時代にこれはまた餘りにも遅々たる歩みだつた。この十年に世界は急激な變化をなした。一面から云へば不況の十年だつたが一面から云へば躍進の十年であつた。日本も、東京も、井の頭もこの十年に面目を一新してゐる。さうしたものに比べると我々の歩みは左程でもなかつた。もつと大幅の歩みが出来た筈だつたにと満ち足らぬ想がする。

二

勿論外形的に見ればこゝにも相當の發達はあつた。兎に角に、武藏野の麥畑の中に一學園が生れたと云ふことは不思議な出現であつた。「うるほひなき地」が水の源になつたのである。麥畑の中に堀つた一本の井戸、その滾々たる水、それを幾百人の幼い者が飲んだ。そして成長した。「生命の水」。然もその水は彼等の胸中深くに更に永久の泉となつて、滾々として湧いてゐる。これは偉大な變化であつた。

三

大正十三年五月十五日開校したときには兒童は小學一年七、二年五、三年九、合計二一名職員は照井君夫妻、山本、私の四人、校地は一〇〇〇坪、校舎一一〇坪それだけで總てだつた。今は小、中、女、三部三五〇名、卒業生小學部二〇〇名、中女六〇名、職員三〇名、校地六三〇〇坪、校舎六五〇坪、かう比較して見ると随分發展したものと云はねばならぬ。

校庭の公孫樹、松、さはらは皆苗木を植ゑたものだが今では一人前の樹木になつてゐる。十年たてばはやり十になるものだ。然し小學部の第一期の校舎の如きはもう古びてしまつた。色はあせ、床も朽ちかけて來た。程なく改築を考へねばならぬ様になつた。それにつけて思ふのは生きた草木と死んだ物の違ひである。生きた草木は十年の間に伸びたつたが死んだ物は年一年と腐朽して行く。世界の不況と躍進の二面もそれから來たのである。「外なるものは日に朽つるとも内なるものは日に新なり」である。いや生命は絶えざる死と生によつ

て伸びる。昨日のものを葬らねば今日のものは生れない。世界の躍進も一面に不況があつたればこそである學園の如きも多くの死を嘗めたればこそ成長も出来たのである。

四

十年の間には随分風雨に曝されたこともあつた。然しそんな日ばかりだつたのではない。暖い春の陽の光に照らされもした。記憶と云ふものは變なもので、ある時はこの十年を風雨の連續だつた様に考へたり、又或る時は不斷の春風和光だつた様に考へたりする。今の氣分で昔を追ふからである。實際はそんなものではない。苦樂相寄ると云つた方がよい。然もそれが成長に必要だつた。或は同情ある人々に慰められ或は理解なき鞭に打たれた。熱せられたり、冷されたり。その間に伸びたり、緊つたりするのだ。伸びてばかり居られまいし、緊つてばかりも居られない。が結局必要なものは皆與へられたと云ふことになる、顧みれば凡て有難い。

五

中女學校の卒業生はこれで二回出てゐる。小學校からつゞけて考へると第一回生は九年第二回生は十年こゝで生活したわけである。現在の五年生が同校の時の一年生で、これが出ると學園の仕事が丁度一巡りしたことになる。自働車が出来ても、飛行機が出来ても、これだけは十年たゝねば十にはならぬ。社會の目覺しい躍進、急テンポの進行にも不拘教育のみはいつも遅々として進まぬ様に思はれる。時勢に取殘されてゐる様に嘲けられることもある。然し世の中には自働車の往けぬ山道があつたり、飛行機で飛込めぬ竹叢もある。自轉車の都合のよい處、徒歩の便なところ様々である。自働車が便利でもどこもかしこも自働車でと云ふわけには行かぬ。教育の如きはその徒歩か手押車で行かねばならぬところの多い道である。生理的に一年に十年分の成長が出来ぬならば心理的にも同様十年の仕事は十年かゝる。それを飛躍させようとして實に多くの失敗が示されてゐる。

時代と共に教材は變る。教法も進歩する。然し成長の法則には變化がない。ギリシヤ時代よりも今日の社會文化のレベルは上つては居るが、今日の愚人はギリシヤの賢人よりもえらいと云ふわけにはいかぬ。恐らく人間知情意は二千年前も今も異つてはゐまい。教育の遅々として進まぬ理由は

そこにある。學園の教育研究は速成栽培の研究ではなかつた。むしろ物質的方面の進歩をたゞちに精神方面にもたらせて、人間速成を急ぐ時勢へ反省を與へんが爲のものであつた。

六

澤柳博士の學園へ寄せられた書に、

「兒童數の増加は結構ですが餘りに順調過ぎるかと存じます。初めは辛抱する時期を経過したいと思ふ位です。自然に來るのでなくてはいけないと思ひます。人員よりも教育の實質實踐を第一として進まれんことを、さすれば必ず盛になります。名の顯はれんよりは實の揚らんことを希望します。」とあつた。學園が生徒募集の宣傳に熱中しない傳統はこゝにある。中途種々の事情から宣傳に苦心したこともあつたが翻つてみるとそれはよい結果にはなつてゐない様に思はれる。勿論教育の如きは最も社會的な事業である。従つてそれを世に示し、人に問ふことは必要である。こそ／＼隠れてやるべきものではない。然しそれも内からの自然な必然な、發展でなければならぬ。内を忘れた外、實の空しい聲、であつてはならぬ。貝類のあの堅き貝殻もやはり内なるやはらかい肉が生み出したものである。我々の器械道具、校舎もやはり我々の内から生出したものでなければならぬ。外への仕事は内への仕事、内の充實が外の發展である。

七

十年の間に實に澤山な人々の御世話になつた。お父様方、お母様方、友人、知人、先輩、靜かに想ひ回すと無數の人々の顔、言葉、奔走が浮び出て來る。有難いことである。學園開校披露の日（大正十三年六月廿一日）私は式辭の一節に次の様に云つた。

「こゝは私が設立者になつてゐますが、これは名義だけのことで、實はこの四人の同人の共同經營です。然もこの四人も實は設立したのではなく、私達の陰にあつて絶大なる援助をして下さる方の力によつて出来てゐるのです。その人も敢て自らを現はされないのでその人もこれを自らのものとせず、社會のものたらしめんが爲です。私達はこの社會のものをたる學園に働くものです。」

こゝの教育に對して私共は一個の理想をもつてゐます。然しこの理想は

決して私共の我儘勝手な考へではなく、この社會の理想であるとかたく信じてゐます。今多くの人々がそれを認めてくれなくともやがては凡ての人々に明瞭に認められ、熱心に求められる理想になると信じてゐます。それ故に精進し、その故に敢て憚らず幼いものを導かうと決心してゐるものです。

かくこの學園はその經營も教育も共に社會のものであります。これを私立とは呼ばれてゐますが、——勿論公立とは云はれないでせうが——社會立とも云ふべきものです。従つてこゝの盛衰は私共こゝに働くものゝ喜憂のみで

第二の誕生を目ざして

照井 猪一郎

風薫る若葉、日に映ゆる新緑——目路限り知らぬ武藏野の樹海の底に黙々として五月の學園は今年の營みをいそしむ。

渺茫際涯知らぬ野と森を浸す淺緑、そが波間を躍り出た鯉幟は爽かな銀鼠色の大氣の中に悠揚と泳ぐ。

五月は武藏野の生命である。鯉幟は關東武人の象徴である。學園明星は實に十一年前の昔ゆかりあるこの季節を卜してこの地に誕生した。

爾來私達は年毎に廻り來るこの生く日の足る日を持ちたびて、校庭の空高く鯉幟を樹立する。そして百八十の兒等の將來を祝福する。特に今年はその劃期的な十周年であるといふ。私達は學園の歴史を愛慕すると共に、更に第二の誕生を意圖して明日への躍進を思念せねばならぬ。「溫古知新」は將に私達に課された今年の命題であらう。

はなく、全社會の喜憂であらねばなりません。この意味に於て私は御來會の諸君がこの學園の振興に對して同情と助力を寄せられる義務があると訴へるものであります。

十年私はこの考へで暮して來た。仕へるつもりで。乏しいながらに全力をあげて仕へて來た。此處は使ふ人なき奉仕の道場である。兒童の何よりも學ばねばならぬことは奉仕の道である。職員も父兄もこれを第一眼目として指導して行かねばならぬ。今日迄の學園はそれによつて立つて來た。將來も更に多くのそれが要求せられる。諸共に奉仕の道に進みたい。

「十周年記念祭」それは誰の耳をもそよるに充分な言葉の響である。幾多の美談や感激や努力の結晶を以て今日を將來したといふ過去を言ひ換へたものだからである。

けれども私達にあつては無條件でその昂奮と感傷を恣にすることは許されない。

歴史は尊い。併しその尊い所以は一度性といふ古い事實の存在と蓄積に於てのみの謂ではない。徒らに過去の追憶を掘り返してはその回顧に陶醉するだけでは老人の愚痴と擇ぶところはあつて居るではないか。

私達は今日を劃期として吾學園十年の歩みの中から、「何が學園を今日にまで導き得たか？」「今日の吾々は現代従業員として如何なる役割を勤めつゝあるか？」「それは果して國家社會の待望に

添ふものであり、而も將來への發展的生命を宿す體のものであるか否か」を嚴密な客觀的立場の上から再吟味して見なければならぬ。そこに十周年といふ劃時代的、或は週期的回顧と反省の意義と必要性が成り立つ。そして其上にこそ今年の吾々の仕事が新しく發祥する。そしてこの第二の誕生を哺む第二の創業は今學園を耕しつゝある人々によつて營まれねばならぬ。

唯私達は將來についてさう輕卒に語り得ないかも知れない。それから不渡り手形の濫發をも慎まねばならない。併し過去の再吟味その事自體の中には多くの未來への暗示が芽ぐみ、次に掲げるやうな些やかな仕事の計畫の端々にも私達の歩まんとする劃線の方向が解つて頂ける様な氣がする。

○學科目について

○學科擔任について 四年以上に學科擔任制を適用して滿一周年になる。成績については御批判に任せるとして、今の所教師も兒童も稍々學習に慣れて來たのか落着きも見えて來た。併し所期の効果を收める爲めにはまだ〳〵の努力を必要とする。

今年の配當は算術安藤、讀方五十嵐、地歴照井のメンバー。二十五、六日頃には父兄會を開いて皆様と共にそれ／＼のプランについて打合せをする事になつて居る。

○地歴と理科について……低學年にあつては各學科は其の分科以前に於て綜合された生活内容として含まれて居ることは勿論である。従つて地歴にしる理科にしる入學以前の生活の中にだつてその要素は内含されて居る。併し之を意識的に引伸ばしてやらうとする計畫的な作用は何と云つても學校生活が始まつてからだ。

小學部では四年から地歴が分科する爲めには一年の時からその系統案が前驅する。即ち工作、製産、配給等の立場から眺めた衣食住の吟味、交通聚落の機構、箱庭遊びから地圖發展へのさうした仕事にまで計畫的な指導の案を立てゝある。

特に現代の兒童は社會狀勢の影響から科學的生活に於て多面性である。従つてそれより得た經驗と知識は十年前の兒童に比して驚くべき豊富さである。吾々は創立當初から今日を豫想して居たが故に一年から自然科なる時間を一週二時間特設して此方面の指導に努めて來た。而も十年後の今日時代は更に拍車をかけて子供達が科學的智識に對する興味と慾求が異狀に躍進した。

私達は之に對應する爲めに小學校に於ける理科教材の系統と種目に大整理を斷行し、その配列を新に編成し、教材を加除し、そして理科科としての始期學年を三年に繰り下げ、之に一週二時間を配當した。同時に一、二年の自然科をもこれへの段階として純粹な低學年の理科といふ立場から細目を編んだ。十周年記念出版の機會に於てかうし

た具案は發表される筈である。

○學習指導について

干涉學習と注入教授は兒童の生活を墓穴へ追込んだ過去の罪科は大きかつた。新教育のハンマーはさびついたその鐵扉を打碎いて兒童を白日下に解放してくれた。爾來、干涉と注入は吾々を戰慄させる呪咀の言葉の如く響いた。

兒童の自由を認めよ。兒童を尊重せよ——このスローガンに唆られて、それに對する何等指導的原理を準備してない人々までが大勢に引ずられて兒童を極端な放恣に委ねた。そして多くの兒童と社會の人々を惑亂させた結果新教育の成果を疑ひ之を呪ふものさへ出て再び反動時代の擡頭を見るに到つた。是非の究明は預つておくとして吾々は今、相當な根據と事實の經驗から一つの新しい指導原理に立ち、新しい意義を持つ指導方法に向つて歩を進んで居る。

學習を能率的ならしめる爲めの統制への干涉と注入を本來の自律學習へのよりよい糧としようと試みつゝあることも見易いその一つの具體化である。

此の發展として一般とは別な意味と方法による宿題——即ち家庭作業が課され、學校の授業時間も延長されることもあるであらう。

簡単な説明は却て誤解と疑惑に導く杞憂があるからこれ以上書くことを控えるが、今年中したら私達の狙所は仕事の上で大體首肯して頂けるに違ひない。

○自律的生活の指導

よく自治會といふものが一般の學校に組織されて居る。

その目的は集團生活が集團自身のものたるべく自律的に規定され、發展して行く爲めであることには誰しも否やはない筈だ。

併し多くの實際を見るに及んで吾々は甚しく幻滅を感じる。それは必然性に根ざす協和とは似て非なる一種の強力支配の模倣であり、議會政治の物真似である。

雄辯な少數の優良兒が議論を遊戯して全體を強引に引ずつて行く。此場合最も陥り易い弊は漫然と他人の過失を摘發し、重箱の隅を楊子でほじくる様の詮索を敢てし、それが恰も全集團の死活に價するかの様到大袈裟に論議され、果ては教師があらでもがなの批評と裁斷とを之に加へる。そしてこゝには宛然裁判所の一シーンを模寫し出す。

更に警戒すべきは兒童尊重の意味を誇大に觀念して彼等の決議にはその如何に拘らず不可侵の眞理を含むものとして之を實行に移さんとする小兒病的態度である。

兒供は吾々を超越した次代のものである。よりよき世代を創造する宿命を負はされた彼等は常に現代の彼方をさして伸びて行く。

吾々はその大切な芽を摘んではいけない。抑壓してもいけない。至んだ指導を加へることは猶いけない。吾々は彼等の此點に對して常に充分な警戒と注意と凝視を怠つてはならぬ。

けれども彼等は飽くまでも未完成の過程中に現実に生活しつゝあるものである。彼等の經驗は淺く批判力は不正確で、文化人としては未だ遙に吾々の後方段階を上りつゝ來るものだ。故に吾々は

之を無指導の下に放任することは許されない。適當なる指導と庇護は彼等の如何なる仕事の上にも必要とする。私達はかうした態度の上に私達に必要な自治會を組織して居る。それは當然兒供達と教師とから成立つて居る。

集團生活の混亂と不統制はお互の理解の排除と利害的矛盾の蓄積から導かれる。併し私達の場合では集團が百八十人といふ小規模のものであるが爲めに、お互の生活はどん底までも見透しがつき、お互の間に容易に深い理解が成立するが爲めに、協調と和平は僅かな努力によつても成熟するし、それ程に又暗黙の間に不文律の統制が働いて居る。

かやうに集團生活が統制され機構化されればされる程、生活は常識として概念化された部分が多くなり、益々意識的努力は少く済むやうになる。僅かなお互の注意、少しばかりの暗示、目まぜ手眞似……でさへお互の意志するところはよく透徹し、理解されて、一々協議を凝らしたり論議を重ねたりするやうな事は少なくなる。鬭争とか紛騷とかによつて團體生活を暗くするやうなことは今の私達の間にはない。彼等はいつも明るく朗かなのはそれが爲めなのだ。

「今年はどうな行事によつてどう行動すべきか。」「どんなことは吾々團體として計畫的に矯正されなければならぬ共通の弊害であるか」が學期始めにわかりさへすればいい。あとはその實行の反省と計畫について一ヶ月一度教師と兒童が話し合ひさへすれば大體は事足りる。故に子供達の自治會の仕事は同時に教師の學校若くは學級經營の仕事である。左に事務分擔の表を掲げてその一般を察し

て頂く。(細い項目は省く)

- 一、兒童圖書館掛圖類地圖類の管理と完成 中村
- 二、理科器械標本及地歴教養物の管理と完成 照井。牧
- 三、美術用モデル、標本の管理と計畫 曾我。澁谷
- 四、衛生と整理一般及兒童養護 五十嵐
- 五、運動具の管理運動一般の計畫 牧
- 六、動物飼育、學校園の計畫と管理 安藤

この分掌は教師と兒童の共同經營によつて行はれて行き、兒童の中でも六年生は教師の指導の下にリーダー格となつて之に分屬し、五年生は之が助手として又來年度の練習として之を助成する。この主腦機關の下に四年以下の兒童達の生活がそれ／＼の適當な仕事を通じて營まれて行く。

○今年の行事プランについて

○學校行事曆について——前年度三學期末……即ち四月前に私達は先づ恒例の來年度全部の學校行事プランを作成した。その中の一部は本誌にも發表してあるが、これは決して學校當局の爲めのみのものではない。父兄も兒童も學校も一箇年を通じての生活の見通しであるから、系統立てられたこのプランに基いて共同の心構と行動をして頂きたい。臨時の突發事項は格別として、今後は一通のお知らせが天下る事によつて、家庭や兒童達が行事の不意討を食はされるやうな慌たゞしさはもうあるまい。

私達は此のプランを小學部の生活大綱とし、之に各級獨自の行事を加味することによつて兒童達

の學校生活を圓滑に潤澤に進展させて行くのだ。○遠足見學のプランについて——遠足や見學のプランについては創立當初から稍々一貫した系統的のものがあつたのではあるが、まだ嚴密な意味ではそれは必ずしも學習の中に統制されたものではなかつた。

今年の計畫は別表で御覽の通り決して思ひ着きな物見遊山のやうな娛樂本位のものではなく、それ／＼の學習と相即し連絡を持つたものを系統立てたものである。

學習が學年を逐うて複雑化し高次に進むやうに遠足や見學も亦次第に家庭のビクニツクの延長から純學習に轉位して行く。

各學年一箇年を通じて見ても月を逐ふて或高まりを持つて居るやうに、それが又次の學年とも關聯しつゝ六箇年を通じて大きく系統づけられて居る。

吾々は吾々の教育主張の上からでもあるが一つには創立當初に於て急速にいろ／＼な設備を完成することの困難を豫期し、又死んだ裝飾的設備にありもしない金を浪費する愚さを避ける意味もあつて、出来るだけ社會の實際について學習させる案を立てた。

それには交通機關の利用にあまり不自由のない都會隣接の郊外に位置することが必要な條件であつた。

田園と工場と都會の交叉線上に學園が位置して居るといふことは此の目的の爲めには恵まれたものである。表によれば毎月見學行事があるのであるが、事實は中々さうは出られない。現在の處かうした範圍の見學が豫定されて居るといふことに

留まるかも知れないがどうか参考書を與へる意味で此の方面への圓滑な進展を希望してやまない。

○校舎の修理

忍ぶことには限度がある。質素と言つてもそれは使用に堪ふる程度に於ての事である。殊に校舎の如きは建築的性能さへ保てない程度に癩朽したとなれば外觀からだけでも児童達の生活の誇りを傷け、其美意識を損ずる。

創立十周年、一九五五の卒業生、延人員千七、八百人の生活を庇保して來た當初のバラック校舎の現狀は、腐朽といふ程度ではないにしろ決してみすばらしくないとは言へない。

十周年の記念事業の當初に第一に考へられたのは小學部校舎の大修理であつた。これには誰にも異議はなかつた。それこそは第二の誕生の象徴であらねばならぬ。従つて三月半早くもこのことは可決され、それに對する豫算も成立した。

壁や羽目板の塗替、床板の張替へ、便所の模様替——これだけでもスガ／＼しい氣分と景觀を以つて新學期を迎へるに充分であつたのに、請負者の都合で未だに着手されないことは折角の出鼻を挫かれた形で如何にも残り惜しい。せめて記念式當日まで仕上つてくれるといふと祈願して居るが今となつてはそれも望まれさうもない。惜しい事の一つである。

○兒童圖書館——美術室を開放して兒童圖書館兼讀書室にした。巾一間高さ五尺二重戸棚三臺が新に購入され、各級の圖書はこゝに集中し分類されて自由に借りて讀まれることになつた。

新刊圖書は各級學級費の中から一人五錢宛を醸出して計畫的に購入する案も立てつゝある。かうして幾年かの後には立派な兒童圖書館が出現するであらう。

○理科器械の整理——從來手工室に同居して居た理科器械はこれも亦新しく購入された二臺のガラス戸棚に整頓された。お蔭で手工室も樂々になつたし、理科器械の設備も整理が可能になつた。今年中には兒童實驗具八組はどうしても完成する案によつて計畫を進めて居る。

○砂場——一つは低學年用の砂場として井戸傍に……これは六年生が分擔し、周縁をコンクリートにする爲めに今工作を急いで居る。

一つは運動場のジャンプ場砂場で、これは五、六年協同で周囲の茅や竹の根を掘り取り、走路を作りひたすらにその工程を進めつゝある。

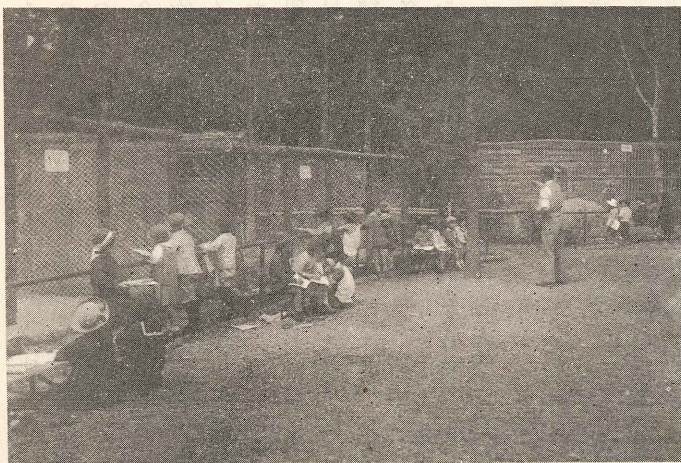
○動物小屋——鶏や兎や鳩や其他小鳥の飼育は五年以下の分擔として、六年は鶏舎の修理、禽舎の新築等を引受けた出來ればコンクリートの池をも増設したいと言つて居るがそこまで手がとどくかどうか。勞力は充分としても經費の問題も考慮せねばならぬ。

○細かに報告すれば限らないがそれは號を逐ひ必要に應じて御知らせすることとする。

武藏の逃水のそれならで、私達の理想の泉も亦逐へども／＼捕へられぬ幻覺に終るであらうか？否、否、吾々は第二の誕生を新なるスタートとして、必ずその一掬を汲んで皆さんと共に醍醐味を味はねばやまぬ。

脚本集を頒つ

十九日 日本青年館で上演する劇「お地蔵様は知つてるか？」「栗畑」の二つを、四つの歌の音譜と、解説を附して四六版五十頁の美裝本にしました。劇を観られるためにも、亦子供達の讀物としても宜しいと思ひます。一冊二拾五錢です。御希望の方は小學部に御申込下さい。



井ノ頭公園内の動物園は五月上旬から開かれた。子供達のためにはよい學習場が殖えたわけです。

明星の教育

霜田 静 志

明星も早十年になつたか、思へばまことに感慨無量のものがある。私は第二年から、明星の教育に参加したのであるが、當時私は自分の教育生活に於ける止み難き要求から、是非學級訓導として一組を受け持つての仕事をして見たいと思ひ、之に馳せ参じた譯である。

此の時入學した子供等を卒業させる迄の六ヶ年其の間には随分と苦勞もしたが、同僚の諸君と父兄の御援助によつて、どうやら大過なくすこす事が出来た。最近私はその詳細なる記録をまとめて「子供への理解」なる一書を著したが、其の書の最後の一項に私は六ヶ年を通じての私の態度を次の如くに記して置いた。

振りかへつて考へて見るに、私の六年間の教育は、知識の集積といふ點に於ては、何としても大きな効果を挙げ得たとは思はない。私は常に單なる知識の集積でないもつと大きな立場からの教養といふ事に力を注いで來たのである。

多くの人々は知識の量の多きことをのみ欲する。そこで詰込教育が盛に行はれる。併しさうした詰込の知識が果して眞の知識であらうか。成程試験の爲めには、さうした知識も役に立つであらう。併し試験を通り過ぎれば忘れてしまつていゝ知識である。

お互に自分の學生時代を反省して見れば分る事で、吾々の頭に後まで残つて居る知識は、決して試験勉強のために覺えた知識ではない。必要に應

じて求めた知識である。

此の見地から私は子供に對して、單なる知識の注入は出来るだけ之を避けた。そして彼等をして知識探求の興味と必要とを感ぜしめ、之によつて研究せしめたその結果子供等の研究の方法なり態度なりはかなり確かなものになつた。

知識の所有といふ事にのみ重きを置く人々は何でも覺えて居なければならぬやうに考へるが、之程馬鹿な話はない。昔は物識りが必要であつた。併し百科辭典も圖書館も完備せる現代に於て、物識りがそんなに必要だとはどうしても考へられない。大事なものは研究の方法や態度の出來て居る事である。どう調べれば之が分るかといふ點にすぐ氣がつく事である。

知識の所有の量の多きを望むよりは、知識を働かす力の方が大事である。即ち大事なものは所有の教育でなくて創作の教育である。結局私の六年間の努力は、子供の力を創作的に發展せしむる努力であつた。

子供は勉強する時期が來れば勉強する。それを餘りに親や教師があれこれ詰込ばかりすると、子供は却つて勉強に對して拒否するやうになる。それでは何にもならない。之をマラソン競争に比較して考へて見ると誠によい。始めに餘り走らせて疲れさせてしまつては、後の大事な時になつて、力が出て來ない。然るに今日の教育者や親達は、最初から走らせるつもりだからかなはない。子供こそいゝ迷惑である。私はさうした態度を決して採らなかつた。それ故に私の教へた子供達は將來に發展する可能性を多分に持つて居ると信ずる。私は之が明星の教育の本當の精神だと思つて、

徹頭徹尾押し通して來たのであるが、今日に於ても此の點は同じであらうと思ふ。否、今後に於ては益々此の精神を發揮して、明星の光を輝かすであらう事を私は確く信ずる。

併し斯うした教育は、今の世間の實情とは隔りがある。今の世間の多くの人々は準備教育ばかりを要求して居る。明星では小學部を終へて後に進むべき中學部女學部があるのに、それにも關らず、父兄によつては、屢々他の學校に行く準備教育を要求した。併し私はそれを勇敢に斥け、あくまで明星教育の立場を説いて思ひ止らせるやうにした。幸にして私の教へた組の父兄は私の此の精神をよく理解して呉れて、私の思ふ所を貫徹させて呉れた。私の教へた組の子供等が、一二の例外をのぞいて悉く明星の中等部に進んだのはそのためである。而して「子供への理解」一篇に記したる如き思ひ切つた教育の出來たのも、父兄の此の理解による事と今更に感謝の念を禁じ得ない。

安田 勝子

◆わがいとし子小學生となりし日の
朝をしぐにふりし雨思ふ(十年前)

◆をさな影まきみに見ゆれすぎ行きし
十年と思ふ時のかそけき

◆あめつちの春來る中にはしけやし
十二のをとめいで立ちてゆく

◆はしけやし子のくろかみを梳きやりつ
(十年學園に生ひ立ちし吾子女學部を卒業す)

◆わがこゝろふとかへりみせらる

◆ふといぶかしげにもわれを見る

子の瞳にこゝろたじろぐ母なり

私ども の立場 中村 勇

十周年記念日を迎へて、僅かに三年目に足を踏み入れたのみの私には、自分で骨折らなかつただけに草分をされた方々のやうにしみじみ來し方を回想するといふやうなことが出来ないのを遺憾に思ふ。何事によらず創業の苦心といふものは一通でないことをよく聞く、そしてほんとにさういふものだらうと思ふ。だから最初から此の學園の建設に苦しんで來て居られる方々、または苦しまれた方々に對して頭が下る思ひがすると同時にその方々に對して此の記念日を心からお祝し度い。そんなことをいふと、まるで自分が局外者にあるやうに見えてよくないと思ふのであるが、此の十周年に、たつた二ヶ年より参加しなかつた私自身がどれ程の意義も持たないことが考へられてならないのである。

日本の創業當時に参加した者は一人も居なくとも私どもは紀元節をお祝する。それと同じやうな意味に於て私は此の記念日をお祝し、同時に十分に意義あらしめ、且つ創業にあづかつた方々の苦心を偲び度いと思ふ。私立學校の創業は公立學校の創設とは全然異つて、何等の背景を持たずに自力で立たなければならぬものが多く、それこそ文學通りの「草分」で、だから一般の公立學校の記念日とも全くその趣を異にするものである。

○
そこで私自身此の際どんな意味を自分自身に持たせなければならぬかを考へて見なければなら

ない。つまりどんな氣持で此の記念日を迎ふべきかを考へて見なければならぬ。

私どもが何事かを記念するといふことは單にその事を回想するといふ感傷の外にその最初の精神に新しい動力を與へることであるといふよりも、自分の内にもう一度その精神を見直して新しく踏み出すことを豫約することに外ならないのである。だからさうした立場からするならば、此の際最も重要な役目を擔ふ者は他の誰よりも現在此の學園を組立てゝゐる人達、そして明日の一步を踏み出す人達でなければならぬわけである。

此の學園の出來た當時は私はまだ學校を卒業して間もない頃で、方々で私立學校が新教育の烽火を擧げてゐた頃である。私は遠い僻村から、さうした新鮮な教育を行ひ得る學校の教師と兒供達の幸福を思つてゐた。過去十年間に於ける日本の教育が思ひ切り轉回されたことは何人も疑はない所である。而してその轉回は何と言つても、從來の教育と軌を異にして進んだ私立學校の人達の力に因るものが多大であつた。何事も思ひ切りやる人によつてのみ改造もされ轉回も可能なものであつて、私立學校であればこそそれが可能であつたのかも知れない。そして又それなくして私立學校の立場が失はれてしまふのである。敢然と進む者のあとには必ず思ひ見なかつた缺點が残されることばがまぬがれないものであるが、それを怖れ過ぎては何事も成し得ずに終つてしまふのである。多くの賢い人達は、決して最初から手を觸れない。そして前進した人の残した缺點を拾ひあげては何とか難くせをつけ度がるものである。現在では公立學校も私立學校も一見變る所がないやうに見える

が、それは一般の小學校が漸く水準に近づいたのであつて、何とかかとか言ひながらもその先驅をなした人達のおかげを多かれ少かれ受けてゐるのである。

新しい教育の芳香に陶醉して教育の眞實な姿を見失ふことは自ら戒めなければならぬことではあるが、統一とか統制とかのために動きの取れない固い殻を自ら着てしまふことは教育の發展を阻止してしまふことになる。そしてさうした殻を破ること、否さうした殻を着ないで自展して行くところこそ私立學校の使命でなければならぬのである。

○
今や私立學校の教育は教育者達の手から經濟的にもぎ取られつゝあることはまことに悲しむべき現象である。勿論教育は教育者の意志一つでは出來る仕事でない。然しながら、教育者の教育理念外に教育が求められるやうになつたら、教育でふ事務だけは保たれるかも知れないが、教育そのものは地を拂つて居なくなるのだ。兒童の自由（放任の意では毛頭ない）が教育の第一條件であると同様に教育者の權威も亦教育の第一條件でなければならぬ筈である。私どもはもつと積極的に私どもの教育理念の前に奴隸になり、義理や體裁や意地やを跳越えて奉仕することを必要とする。華やかな霸氣も教育には惜まるべきものであるとともに老大家の如き勿體振りも亦何物も貢がないであらう。「親鸞は弟子一人持たず候」といふ沈潜よりも「天下の教育を如何せん」の不退轉こそ目下の我が國の教育に、殊に私どもになくしてはならぬ態度ではあるまいか。

創立十周年の記念事業

學園十周年を記念する爲めに昨今種々な事業が計畫されて居ります。最初小學校三學級の些やかな精舎でありましたものが、今では小學部、女學部、中學部の三部を包容する大世帯となりました。それにつけても差當り動きのとれない事と言つては校舎の狹隘な事であります。記念事業の第一期計畫として左の増築が學園關係の方々の御盡力によつて具體化しつつあるのは、將にこの焦眉の急を切り抜けなければならぬ土壇場に臨んで居るからなのであります。

一、中學部

- 1、講堂 一棟 平屋建八〇坪
- 2、作業室 同 二〇坪

二、女學部

- 1、普通教室二ツ 平屋建四五坪
- 2、理科室 二五坪

三、小學部

- 1、科學館一棟 平屋建五〇坪
- 地、歴、數學、理科の實驗室、作業室及器械標本其他の教辨物の陳列若くは保管に充てるもので前號にも其必要と實現の可能を記載したものと

外に小學部の校舎、机、腰掛、便所等の大修理及器械備品の充實の爲めに一千圓が計上されてあります。器械備品といふのは主として理科學習に使用する兒童實驗用具、體操用具地理教授用掛圖

等であります。

學園單獨の營みとしては、五月十九日午後一時半から神宮外苑日本青年館で催される小、女學校合同の學藝會、小學部の兒童劇放送、三部の職員が協力して學園教育の全貌を御紹介する爲めの出版等があります。放送も著書も皆記念日と前後して完成さるべきでありましたが、行事輻輳の爲めに放送と出版は五月以後に延ばされました。著書は大體四六版三百頁程度でその内容は概略次の如きものであります。

- 學園教育問題の展開……………赤井 米吉
- 新讀本の編纂次第とその取扱……………五十嵐重虎
- 將來の國語教育……………五十嵐重虎



新緑の匂ふ静寂——恵まれた環境の一つです

- 低學年に於ける自然科の意義と其仕事……………照井猪一郎
- 理科教育の新しき觀點……………照井猪一郎
- 數學教育の諸問題……………中島 昇平
- 地理教育改造の要諦……………照井猪一郎
- 國史教育に横ばる諸問題……………照井猪一郎
- 音楽教育……………
- 附感覺教育としてのリトミック……………照井 げん
- 見學旅行、夏季生活指導大綱……………安藤 正義
- 女子教育の諸問題……………赤井 米吉
- 青年期の教育問題……………上田八一郎
- 低學年の學級經營……………中村 勇
- 高學年の學級經營……………中島 昇平
- 中等部の體力測定……………前島 治吉
- 私達は此の著書を以て明星十年の教育成果を報告し、併せて將來への動向について御了解が頂けることと思ひます。
- 私達は以上二様の記念事業の一日も早く完成せられんことを切願するものであります。

十年間兒童數調

	男	女	計
第一年	一二	九	二一
第二年	四〇	三九	七九
第三年	七三	五三	一二六
第四年	八八	七四	一六二
第五年	八七	七〇	一五七
第六年	八九	七二	一六一
第七年	九三	七五	一六八
第八年	一〇一	七三	一七四
第九年	九七	六五	一六二
第十年	一〇三	六九	一七二

追憶

二三

照井げん子

創立十周年!! いつの間にこんな長い年月が過ぎ去つたのか? 可愛らしい一年生を十一度も迎へたとはどうしても考へられない。明星學園建設敷地」といふ棒杭を書いて、あの麥畑の中に立てたのはつひ此間のやうな氣がしてならないのに、もう早や校舎が腐つて來たの、大修理だのなんて私には何だか夢のやうな事實だ。四五日前ひよつこり圖書室にあつた寫眞帳をあけて見ると、第一枚目に開校の翌日、校庭で撮つた二十名(一名缺席)の子供等と四人の先生方との記念寫眞が貼つてあつた。十一人の男の子はとり／＼の洋服姿で九人の女の子はいづれも眞白なエプロン姿、何しろ一番大きい子が三年生だつたから、一寸見た丈では誰だつたのか見當がつかない。よく／＼見つめると成程これが此頃髪をすばりとわけて來たあの子だなアと、がつちりした青年になつた今の顔と結びついて來る。それにもまして四人の先生方の若かつたこと、皆はち切れさうな元氣な顔。赤井先生のおつむの毛だつてむく／＼として此頃のやうに一本／＼並んで居るのではない。何と言つても十年といふ年月は争はれぬものだ、つくづく無量の感に打たれました。

○ 子供の募集はまだ建物の形さへない中から初め

たが、それにしても麥畑の棒杭一本を見た丈で、唯々學園の創立趣意を信じ、武藏野の大自然を愛好して、大事なお子さんを入學させようと決心せられたあの當時の父兄の方々の勇敢さ、大膽さは今から考へると全く驚異と言ふより外はない。學園に永遠の礎を据ゑて下さつたその父兄の方々に對する私達の感激は、教育理想の實現慾と相俟つてその期待を裏切らぬやう努力せざるを得ませんでした。お母さん方も亦非常な熱心で、毎日二人三人づゝかはつた顔の見えない日とはなく、よく皆と一緒に日光を浴びながら楽しい晝食を共にしたものです。幸にして二年目には新一年の入學者が三十名に近く、全校の兒童數は創立の四倍位にまで漕ぎつけることが出來た。

○

開校の日はずが／＼しい若葉の五月十五日、天氣がよかつたら武藏野の空氣を吸つた丈でもどれくらゐよい印象を残したかわからないのに、これはまたどうしたものか大變な荒天、印象の點からだけ考へるとこの方はむしろ強かつたでせう。朝から冷い／＼雨が止まずに降りつゞけて居る。今のやうに便利な自動車があるでもなく、淋しい公園の道を御臨席の澤柳先生をはじめ皆歩いてお出でになつたものです。然も校舎はやつと半出來で、周圍には窓一つなく、床板も假張りのがた／＼ほんとに屋根があるといふに過ぎなかつたのです。仕方がなしにあたりにも幕など借りてまはしたが、それでも雨は遠慮なく吹き込んで來るので、澤柳先生も、「これではあんまりひどいなア」とおつしやいましたが、ほんとにお氣の毒で皆に濟

まないといふ氣持でいつぱいでした。せめて今日だけでも朗らかな天氣を恵んでくれたらと、薄暗い空がうらめしくなりませんでした。それから二三年學園に何か催し事のある度に雨が降つたので、明星と雨とはつきものゝやうに言はれたものです。

學園の誕生は今故人となられた茶郷氏の後援に依つて案外樂に出來たが、さて之を哺み育て、行く苦心は又決して容易なものではなかつた。その意味に於て開校の日の嵐は、吾々にさうした暗示と覺悟を與へ、兎角誇らかなり勝な人間の心に強い鞭をあて、謙讓と反省と同情とを教へてくれたものかも知れない。其後種々の事情からして經濟經營に於ける赤井先生の御苦心は大したもので、教育の實際經營に於ける先生方の悩みも亦決して小いものではなかつた。

○

すく／＼と延びて行く學園の子等と共にある時、中等部を終へて濟瀾たる若人になりつゝある彼等の姿を見た時、吾々は教育者でなければ味ひ得ない親心とでもいふやうな喜悅と幸福とに満される。白髪のかきた事などはつひ忘れ、いつも／＼若々しい明るい氣持で其日々々々を過して行けるのは、全く純眞な子等と共に働かして頂いてるお蔭だと、唯々感謝の外はない。

脚本集出來

○お地蔵様は知つてるか?
○栗畑

表紙 恩地孝四郎畫伯

四六版五十頁

寫眞凸版音譜四頁附

頒價 貳拾五錢

小學部行事曆

昭和九年度

四月		五月		六月		七月	
月		月		月		月	
一	二	三	四	五	六	日	一
日	日	日	日	日	日	日	日
火	水	木	金	土	日	月	火
教員御親睦參加 午前十時ヨリ職員會 學校經營案協議 午前九時始業式、入學式 十一時ヨリ茶話會、攝影 始業時間午前八時半 ・兒童作業割當ヲ定ム	・鯉職樹立 八十八夜 ・記念行事一切ニ關スル打合セ各部 必要ニ應ジテ隨時開催 端午節句 全校遠足 立夏 ・定例職員會 十周年記念式ニ關スル打合セ 係分掌決定 全園職員會 ・身體検査洩ノ兒童ノ校醫檢診 土 ・記念學藝會事務分掌其他一切打合 創立十周年記念式舉行 ラザオドラマ放送 休業	・定例職員會 午後一時半ヨリ十周年記念 學藝會開催(日本青年館) ・定例職員會 ・兒童自治會 木 ・兒童自治會 土 ・海軍記念日ニ因ム講話 四、五、六父兄會 海軍記念日 汐干狩 水 ・一年級第一回父兄會	・皇太后陛下御誕辰 夏季后生活ノ具案作成 夏季后生活ノ宿題 ・學習遲滯兒ノ救済案 ・六年生ノ整理學習案 ・夏季生活場所 二、三年學校ニ於テ 四、五年海岸 六、年春掛明星學寮 ・兒童自治會 夏季后生活ニ就テ父兄ニ通知ヲ出ス ・七月二日ヨリ八時始業午前限リノ ・元寇ニ關スル講話	・時ノ記念日ニ因ム話ヲ各級デスル 時ノ記念日 國旗生誕會 入 梅 ・梅雨期ノ指導 土 ・時ノ記念日ニ因ム話ヲ各級デスル 時ノ記念日 國旗生誕會 入 梅 ・梅雨期ノ指導	・四、五年日光一泊旅行 各學年見學遠足 ・鰯齒豫防デー、口腔衛生講話 ・定例職員會 ・夏季生活ノ計畫	・元寇記念日 定例職員會 本日ヨリ八時始業 授業午前十一時限リ	・七夕祭 夏季生活詳細案ヲ通知ス 今週中各級父兄會開催 ・見學ノ計畫及實行 土 ・自治會 臨海生活兒童ノ身體検査 定例職員會。考查原簿作成 夏季后生活最後打合セ ・學期末美術小展覽會 ・體育會 ・音樂會 ・劇ノ會 午前十一時ヨリ大掃除 學期事務整理 終業式、通信箋交附 金 ・夏期生活開始 日 ・明治天皇例祭

九月	十月	十一月	十二月
----	----	-----	-----

第 三 學 期											
二 月 (平 年)											
三 月											
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
火	木	土	月	火	水	木	土	日	月	日	月
九時三十分四方拜賀式舉行	元始祭	新年宴會	十時ヨリ新學期職員打合せ會	九時始業式	遠足見學計畫	學齡兒童調査	入學申込促進通知	職員會 ・入學勸誘宣傳ニツイテ協議 ・來年度學科交換打合せ	月 日	金 日	土 日
新一年第一回詮衡											
紀元節拜賀式九時三十分ヨリ舉行											
卒業記念寫眞撮影											
卒業學年ノ父兄會											
定例職員會											
卒業式行事打合せ											
自治會											
新入兒童詮衡方法ト係分擔ニツイテ打合せ											
自治會											
二月二日新一年第一回詮衡ノ通知ヲ出ス											
新入兒童詮衡方法ト係分擔ニツイテ打合せ											

母のうたへる

安 田 勝 子

あなかこのたまゆらも大き手に
生ひゆくわかきいのちなりけり
たまゆらもいのちはそだつうつそみの
母はすべくなかなしかりけり
うつそみの母なるわれやかくに
しげきおもひぞ吾子はしらゆな
やうやくにをとめとならむ子を見つゝ
このうつそみを寂しみにける
めざましく伸びゆくものか吾子はもよ
すでにをさめとなりにつけらずや
かにかくとこの世の母のねんじごと
わかきいのちはあづかりしらぬ
その母のこゝろ皆れまごふたまゆらも
ひたにたのみてよりあるたまぞ
・學園即興六題。古き詠草より
伸びのよき脛けり上げてわが前を
走せすぎし子よ
生きものゝにほひさせつ
少年の野性のいのち愛しかも
もの争ふと汗あえてある
土これて何か作るとをさながら
そのいさなみのひたむきなや
(樂 焼)
吾子が作りし土人形はれぶたげの
細きまみせり見らくしたしも
ふさだまり何かみつむるつぶら瞳よ
何を見るそのひたむきの瞳よ
ありとある稚さいのちのうつくしさ
子らが素足の伸びのよろしさ

小學部遠足旅行見學系統案

月 九	月 八	月 七	月 六	月 五	月 四	一 年
製氷工場 アイスクリーム工場		立川飛行場	豊島園 村めぐり (農村ノ生活)	五日 全校遠足 (二〇錢程度) 全校汐干狩	井之頭動物園	一 年
奥多摩川原 御嶽驛下車 射山溪	夏季生活 學校宿舍	軍用鳩教調 (中野) 軍用大教調、警察大	植物園 (小石川) 製氷工場 アイスクリーム工場 清涼飲料工場	關前淨水池 村めぐり (筍山、養鷄) (養蠶、田植)	武藏境淨水濾過場	二 年
三鷹天文臺 葵ノ栽培場 深大寺	夏季生活 學校宿舍 夏ノ天体觀測	軍港(横須賀) 軍艦ノ内部 三笠艦	鐵道省大宮工場 鐵道博物館 氷川公園 氷川神社	鎌倉ト江ノ島 名所めぐり 村めぐり (養蠶、田植) 養蜂園	宮城遙拜 日比谷公園 航空館	三 年
府立農事試驗所 立川養豚場 立川飛行場 (陸軍)	夏季生活 (海) 神奈川縣三戸 城ヶ嶋燈臺 荒崎ノ高射砲 武州御嶽登山 (有志) 日歸リ	商港(横濱) 旅客汽船 其他港ノ設備 野毛山公園 船舶信號所 生絲検査所	ガラス工場 吹ガラス、型ガラス 電 球 (村松ガラス工場) 錦絲町	箱根、熱海一泊旅行 小田急廻遊利用 日光一泊旅行 東武線利用 (四、五合同、一年交替)	村山貯水池 山口貯水池	四 年
武藏國分寺趾 (二〇錢) 府中大國魂神社 (武藏國府趾) 分倍河原古戰場	夏季生活 (海) 神奈川縣三戸 城ヶ嶋ノ燈臺 荒崎ノ高射砲 昇仙峽登山 (有志) 夜行翌日歸リ	浦賀造船所 久里濱 (ベリー上陸地) 觀音崎燈臺 走水神社 追濱飛行場	ゴム工業 (東京ゴム工業 綾瀬) セルロイド加工 (ローヤルセルロイド) 亀戸	箱根、熱海一泊旅行 小田急廻遊利用 日光一泊旅行 東武線利用 (四、五合同、一年交替)	多摩聖蹟 鳥獸試驗所 (京王電車 南武電車) 多摩丘陵ヨリノ展望	五 年
國會議事堂 兵 營 魚 市 場	香掛明星學寮 (山) 夏季生活 淺間、妙義、小諸 碓氷、善光寺 日原鐘乳洞 (有志) 一泊	北伊豆ノ史蹟 北條、葦山、三島 日歸リ 一泊ナラバ修善寺泊	陶磁器工場 (大倉陶園—雜司ヶ谷) 王様クレヨン工場 (池袋)	日立鑛立 水 戸 水戸城趾、常磐神社 偕樂園 日歸リ	鎌倉ノ史蹟めぐり	六 年

月 十	月 一十	月 二十	月 一	月 二	月 三
多摩川附近梨狩 (二〇錢程度) 八洲園(地形展望鳥瞰圖)	製菓工場 (森永、明治)	上野動物園 不忍ノ池			
高尾山(地理) (關東平野西部) 多摩御陵	製菓工場 (森永、明治)	田中玩具工場 (千住二ノ九一七) 玩具工場 東京セルロイド (寺島)			
大山登山(地理) (ケーブルカー終点迄) (關東平野西南半部) 阿夫利神社	カルピス會社(澁谷) 鐵道省汽車博物館 (有樂町)	青木鉦、メタル工場 (西巢鴨町池袋) 鉛筆、クレヨン (大日本鉛筆) 西巢鴨池袋	ライオン齒磨工場 (口腔衛生ノ話)	養魚場 (砂町方面)	淺草觀音 隅田公園(川蒸汽) 震災記念塔
筑波登山 高山測候所 (筑波男体) (全關東地方展望)	自動車工場 (鶴見フォード)	精糖工場 (鹽水港一芝浦) (大日本精糖一砂町)	博物館(上代文化) 科學博物館 動物園	製紙工場 (王子製紙下十條工場) 石鹼工場……下十條 (エス、ケイ粉石鹼其他) 上野、下十條下車團體 回遊券利用 四〇錢	靖國神社 遊就館 國防館
大島行 汽船一泊小使共二圓 (複式火山ト航海)	製塋工場 (程ヶ谷、鶴見) 製油所(鶴見)	文房具、タイプライ ター(黒澤工場) 荏原矢口町	肥料藥品 (大日本人造肥料) 王子 鑄物工場 川口	紡績工場 メリヤス工場 綿織物工場 モスリン、綿糸紡績	明治神宮 實物館 繪画館 乃木神社 乃木大將邸趾 乃木大將墓
卒業學年關西旅行 小使共一六圓 (汽車汽船共) 六泊一七日間	新聞社 (日日、朝日) 東京青果市場 (秋葉原)	時計工場 (精工舎一柳島) 帽子 (東京帽子一柳島)	芝卜上野 (東京史蹟) 寛永寺、増上寺、泉岳寺 薩藩邸蹟 (西郷、勝會見所)	東京市淀橋淨水場 (一五錢) 煙草專賣局淀橋工場 三河島汚水處分場	染物工場 製糸工場 絹織物工場 (八王子方面)

○ 其他臨時催物デ適當ノモノアル場合

記念學藝會

十周年を記念する意味で既にお知らせしました如く十九日午後一時半から日本青年館で音楽、舞踊、劇の公開を致します。

當日のプログラムは次の通り

◇第一部 音楽

指導 關口典之
照井げん

1、合唱
五月濱邊

2、合唱
雁

3、合唱
新與日本少女の歌

4、合唱
希望のさゝやき

5、合唱
かくれんぼ

6、合唱
山彦

7、合唱
ハ山百合

8、合唱
兵隊さん

9、合唱
イ夢打

10、合唱
口竹取の翁

11、合唱
ハ鷺

◇第二部 舞踊

指導 石井小浪

1 荒城の月

2 小鳥の唄

3 春風

4 鳥籠

5 昭和の子供

6 姉妹

7 夕日

8 ギャロップ

9 サンタ・ルチャ

10 飛躍

11 證城寺の狸囃子

12 澄み渡る空

◇第三部 兒童劇

1 お地藏さんは知ってるか？

(所要時間二十分)

作及指導 照井猪一郎

吉原 規

小學部兒童

出演兒童

朝の森

明朗な朝の気分と無邪氣でユーモアリスクな子供供の生活

出る者

太郎 二年男 朝子(太郎の妹) 二年女

春子 四年女 一郎 春子の弟) 二年男

整もない集團が慣習でのみ動いて居るナンセンス。

出る者
蟻の大將 四年男
黒蟻の兵隊大勢(男子) 二、三年男
赤蟻の兵隊大勢(女子) 二、三年女

第三景 夜の森
グロテスクな夜の森の一スナップ
道義と安息と飽満のない自然界の縮圖

出る者
めくら蜘蛛の親 五年男
その子(女) 五年女
火取虫 四年男
蛾 三年女
かまきり 四年男
梟 三年男

2 栗畑 二幕二場
(所要時間四十五分)

作及指導 照井猪一郎
吉原 規
舞踊振付 石井小浪
小學部兒童

出演兒童
百姓のお父さん 六年男
その子(男) 六年男
同その子(女) 五年女
牝鶏 六年男
牝鶏 六年女
雞子(五羽) 二年男女
ガキ 六年男
蝦蟇 六年男
雀大勢 三、四、五年男女
案山子 六年男
父雁 六年女
母雁 六年女
子雁(四五羽) 二年男女

餘 滴

五十嵐生

△若葉搖ぐ學園の五月は十周年の榮光に映えて、此の十五日は記念の式典が舉げられる。永井拓務大臣、吉田廣島文理大學長には、御多忙の中を割いて御臨場下さる筈、この異例の事實に對して我等亦異常の感激を覺えるものである。

△四月中島先生を送つて山梨縣より原田先生を新一年擔任として迎へた。中島先生が六個年學園のために辛勞なされたことを深く謝するものである。

△本報記事で、園長、照井(げ)先生のものなご校正中私は何となく眼頭の熱くなるのを覺えた。照井先生の「第二の誕生をなさして」はその緒言に我々の意志を代表してあるし、記念事業の記事並に中村先生の「我等の立場」と照合して、本當にこの學園の總意が理解して貰へること、思ふ。霜田先生並に安田さんには御多忙中編者の無理を容れて玉稿を下さつた。尙十周年に因んで安藤、牧、岡先生の原稿も戴いたが紙面の都合で割愛したのは惜しかった行事曆、遠足系統案は是非御熱讀御利用を願ふ。

△十周年記念號を輯するに當つて、我等は特に地下に在る甘美に酔ふことなく又現實の此の構成を虚號することなく只管に草創の精神を新たに生かして將來の充實を企圖する決意をこゝろに忘れたくないと念じ、その爲には汎ゆる恣意的なものを斥ければならぬと自省させられる。(五月十三日)